

4月19日（水）鈴木三太夫供養・動物慰霊祭

江戸時代、幕府直轄地であった大谷村の農民は、領主による重税に苦しんでいました。名主の鈴木三太夫は農民の窮状を無視することができず、少しでも税金を軽くして農民を助けて欲しいと再三にわたり領主に嘆願しましたが、聞いてもらえませんでした。思い余った三太夫は幕府に直訴しようとしたのですが、事前に発覚して捕らえられ、貞享元年（1684年）に本校の敷地内にあった代官所の刑場で2人の幼子と共に処刑されたことの供養を行いました。

また、本校で飼育する動物たちの慰霊祭も行いました。

生徒たちや教職員は線香をたむけ、前者の供養と多くの学びを得た動物たちへの感謝と慰霊の気持ちを捧げました。

